

第8回 吉野町子ども・子育て会議

会議要旨

■日時： 平成28年2月24日（水）PM7：00～9：00

■場所： 町中央公民館5階 閲覧室

■出席者：

	氏名	所属・役職名等
1	石田 裕子	奈良佐保短期大学地域こども学科 准教授
2	戌亥 一男	吉野町民生児童委員協議会代表（会長）
3	上田 正行	吉野町区長連合会代表（会長）
4	佐々木 淳	わかばこども園保護者代表（副会長）
5	中東 郁雄	小中学校長代表（吉野中学校長）
6	中前 照美	よしのこども園長
7	中山 智美	わかばこども園長
8	林 豊子	公募委員
9	山本 隆敏	吉野町議会議員（文教厚生委員長）
10	山本 智康	よしのこども園保護者代表（会長）
11	和田 公子	奈良佐保短期大学地域こども学科 客員教授

※池田委員欠席

■配付資料

子ども・子育て支援事業計画の検証

平成28年以降の主な取り組み予定

【出席委員数報告】

本日の出席委員は12名中11名です。会議条例第6条第2号にもとづき定足数に達しておりますことをご報告させていただきます。

【会長挨拶】

こんばんは。新制度が始まって間もなく1年になろうとしています。ようやく落ち着いてきたかなと思いますが、吉野町はいち早く新制度にのっとなって動いていただいていることに、私たち北部に住む者からすると吉野町は先進的だなと思っています。新制度に基づいて幼稚園保育所のほうに向けて動いていただいておりますが、出産・妊娠・結婚のことから考えていかなければならないのがこの会の役目かと思っています。本日は次年度に向けての忌憚のないご意見を頂戴します様宜しく申し上げます。

【署名委員】

佐々木委員、中東委員よろしく申し上げます。

【議事】

それでは議事1「子ども子育て支援事業計画の検証」を議事と致します。事務局よろしく申し上げます。

(事務局説明)

資料に沿って説明

【質疑応答】

(委員)

今説明を頂いたのですが、教育委員会だけではなく、いろんな課にまたがっていると思います。そうすると、今日は少なくとも町民課であったり、まちづくり振興課であったり、長寿福祉課の人が出席して、どんな対応にもついて行ける体制を整えるべきなのではないのかなと思います。仮に今日、私がまちづくりに関する質問をしたら応えようが無いと思います。27年度の検証を行うのであれば、少なくとも責任のある答えの出せる人が必要なんじゃないかなと思います。

教育委員会に言いたいことは、全体的に数字が必要ではないかと、今日は検証と聞いていますので言葉の羅列だけではよくわからないところがあるので、吉野町は子どもの数が少なくなってきた一人がとても大事な状態です。多くても大事ですが。一人一人に手厚い目を行き届かせるためにある程度数字の成果で発表してほしいと思います。

検証するには数字が必要だと思います。前倒しにしていけないと時間ばかりが過ぎてい

くと思います。だからなるべく早く検証できるものはしていくことが大事なのではないかなと私は思います。

(会長)

数字の出るところと出てないところがありますので出ているところを主に絞って、本日は検証までいけるかどうかはわかりませんが、今の時点で数字を出して頂いている所もありますのでその辺りも含めてお考え頂いたうえで、少し内容的なことについて、この事業という風にとらえていただくのも一つかなと思います。皆様、熱い思いをもって吉野町に関わって頂いている委員の皆様でいらっしゃいますので、ひとつひとつ詳しく聞かなくても了解いただいているところもあると思いますが、あらためて、具体的に話を出していただいてもいいかなと思います。

(委員)

具体的な数字がどこまで、どんな形で見せていただくのかはわかりませんが、例えば表の検討課題で空欄になっているところがたくさんあります。中身も詳しく聞かせてもらっていない中で、来年も同じことをしていくのであれば、今よりも少しでも質の高いものに伸ばしていったとところを保護者としては望むところがあります。

それが、吉野町って子育て環境に恵まれているということに繋がると思います。検討課題が本当に何なのか、担当課が本当に抱えている課題を見せていただいて、もう少し見える形にさせていただけたら、町民サイドとして協力できる場所もあると思います。

また、こういう大変多くのメニューを取り揃えていただいて、充実した取り組みをしてくれているのはわかりますが、それを広くの町民さんに知らせていくのが大事ではないですかと前回の会議で言わせていただきましたが、今どうなっているのか、今後どのように伝えていくのかを教えていただけたらと思います。

(会長)

いくつかの視点で質問がありましたが、二つ目の質問で、広く情報提供していくことが大切だという意見ですが、具体的にSNSで情報発信をしていきますとありましたが、それ以外で何か情報提供するのに実施していることがありますか。

(事務局)

広く広報ができていないということがあります。まずHPの改善をしていくことが課題であると考えています。見やすく情報がわかりやすい形でしていきたいと思っています。

また、子育て支援だよりの発行も考えています。現在の子育て支援だよりはこども園でおこなっているにこにこランドの分だけをHP載せていますが、それ以外に町で行う子育て支援事業についてもう少し詳しい内容についてのたよりというものを載せて周知をしてい

きたいと考えています。

(会長)

たくさんのいいことは、そのほとんどが申請をしないといけないものかと思います。知らないまま過ぎていくのではなく知った上で、適切に申請が行われサービスが受けられるようになればいいということを懸念していただいているお話でした。関係の人たちが集まる場所で、必要な情報を書面だけではなく、出来たら口頭でもお知らせできるような機会があればいいと思います。

また、委員の皆様もそのような機会があるときに、町民の皆様にお知らせいただければなお、事務局にもプラスになると考えています。内容の検討課題のところでも事務局で検討しているところはいかがでしょうか。

例えば、お父さんと遊ぼうという事業について、未実施になっていますが、実際どうして未実施になっているのかを少しお知らせいただければ、様々な案も出やすいと思います。

(事務局)

今年度につきましては、調整がつけられませんでした。以前行ったときにも日程の調整が難しかった経緯があります。来年度は一日でもいいので開催できればと思っております。県のほうで、イクメンに関するDVDを作成しています。来年度はそれをCVYで流したりもしていきたいと思っています。

《引き続き資料に沿って説明》平成27年度子ども・子育て支援事業計画実績報告より

(委員)

・10番の短期支援事業、ショートステイ トワイライトステイというのは、これを民間委託するというのは手を上げるころはないと思います。あるかないかの子どもために体制を整えておくのは難しい。そこでファミリーサポートのような形を検討されていると思いますが、いざマッチングをするときに困ると思います。これは緊急なんですよね。急に対応していかないといけない。

そこで私が勝手に思っていることなんです、社会福祉法人に声をかけて、児童擁護施設を誘致する。そこで、ショートステイやトワイライトステイという事業は取り入れているので、専門の職員と普段親と生活することが出来ない子どもたちがいる中に、緊急のときにそういった子どもたちが生活できればいいかなと、夢として思います。土地の問題や、建物の問題で、児童擁護施設に入りたくても入れないという子どもたちもたくさんいます。そういうのを誘致するのも、人口も増えるしいいと思っています。

(会長)

普段そのように思ったことがありませんのでいいご意見だと思います。検討していただくのも一つかなと思います。

(委員)

9番や11番なんですけども、実績がないから、今後考えてみるという発言のように感じましたが、私は窓口は広く持ってあげるべきだと思います。世の中が多様化してきてどんな子がどんな時に出てくるかわからない。だけどその時に吉野町には制度がないから受け入れられませんというのはおかしいと思う。計画ゼロでもいいから計画の中に入れてほしい。そして出てきたときに対応できるように体制を整えてほしい。

たとえば病時・病後児保育事業も今はなくても今後出てきたときに対応できるようにしておいてほしい。受け入れ可能施設がなければ、うちにはその制度が無いから出来ませんとになってしまう。それは違うのではないかなと思います。せつかくこういうことを頭の中に入れて27年度計画に入れたわけですので、28年度も同じように計画に入れ、受け入れの窓口の整備はしてほしいと思います。

(会長)

非常に難しい事業です。病児保育のある近隣の保育園に行ったことがあります。保育園に在園している子がいるのでなかなか難しいなと感じました。地域の特性を活かしというところが吉野町ならではの部分で、子育てをする人や、子育てを終えた方がわたしの家ならいいよと言ってもらえるような、そんなところを開拓するほうがまだ見込があるのではないかなと思います。

いわゆるファミリーサポートの元気な子だけ預かるというのではなく病気の子も預かるということは専門的知識が必要になってきますので、医療的な措置ができる人がいる場所を整備していくことはなかなか厳しいと思いますが今後の課題だと思います。こども園の先生方、いかがでしょうか。

(委員)

今年度インフルエンザが流行しまして、学級閉鎖にするべきかすごく迷いました。予防的措置として学級閉鎖にしました。本当に困っている家庭もお聞きしました。

仕事にいけませんでしたとおっしゃっているお母さんがいらっしゃいましたが、やっぱり安心して働いてもらうために病気になっても対応できる場所があればありがたい話だと思います。

(会長)

町としてルートをどうするかを考えていくことが今後の課題かと思います。それでは議事の2に進みます。「平成28年度以降の主な取り組み」についてよろしくお願いします。

《事務局説明》

資料に沿って説明

(会長)

議事1. 2が終わりましたが、何かご質問、ご意見ございますか。

(委員)

平成27年度にこども園の給食を実質無料化されましたが、小中学校についてはどう考えていますか。また、平成28年度よりこども園と小学校の通園バスの無料化を考えておられるということですが、中学校はどのように考えておられますか。町長は子育て日本一を目指して取組んでおられます。早くからいろんな取り組みをしてくれていて、喜ばしい、誇らしいものだと思います。しかし、近隣の市町村もいい所は取り入れ、似通ってきています。だんだん追いつかれている。吉野町はリードオフマンであるべきだと思うので、給食の話やバスの話はいいチャンスだと思います。事務局はどう考えていますか。

(事務局)

平成27年度は認定こども園が開園しました。また、福祉医療については県の制度よりも早く無料にしました。町長は子育て支援、教育については重要視されています。

今回、新たにこども園と通園バスの無料化については、中学校はスマイルバスに乗ってもらっているので通学以外にも乗っていただいている。例えば塾に行くためにバスを使うということを認めています。逆に、こども園、小学校は通学のみしか使っていない。また、中学校は部活動もあるので、土曜日や夏休みも使っている。そういった経緯から平成28年度については見送ろうということになりました。これらについては、あくまで議会で承認いただかないといけません。

小中学校の給食の無償化について、試算をすると財政的な問題も出てきます。町長の意向としては、全面無償化にしないと意味が無いと思っているので、現段階では継続審議中です。

(会長)

当初、保育料を決めるときに給食費を無料にするという事からスタートしたのではなく、保育料が上がる方が出てくるために、給食費を無料にして差額分を相殺することが意図す

るところだったかと思います。初めて聞かせていただいたときは、本当に大丈夫ですかと聞くくらい、英断だったと思います。リードをすることは大切ですが十分していると思います。そこから更にバスのことも考えていてすごいなと思います。

第3の議事 質疑応答と提案

(委員)

吉野町は子育てが進んでいると思います。しかし、町民で実際住んでいる者からするとそれが当たり前になりすぎて何が進んでいるのか、何が目玉なのかが、なかなか見えづらいものがあります。特に父親は見えづらいところがあります。逆に外にPRするとき、こんな事業が目玉だということをはっきり教えてもらえたら、私たち町民も広報活動を行っていいと思います。近隣の市町村と比べてどういったところが進んでいるのかを教えてくださいましたらと思います。

子育て日本一のまちを目指すんだとされていますが、対外的に無料化にすることは家計にとってありがたいことですが、例えばこども園の育友会として以前からお話していることですが、わかばこども園で0.1.2歳は預かれないという環境があり、同じ吉野町に住んでいてよしこども園とは環境が違う。あくまで地域性の課題だと思いますがそういったことがある。

バスについて、1号認定のこどもが登園しない夏休みなどの長期休暇中はバスが無くなるので、2号認定のこどもたちはバスに乗れず親が送らなければいけない。地域の課題だと思うが、教育委員会に伝えていますが、出てくるのは無償化などの話であって、本当に地域の課題が解決に向いているのかが見えない。そういったことを解決することが地域に根ざした教育なのではないかなと思います。

(事務局)

いろんな形で住民の方のご意見があると思いますが、その中でアンケートをとったりして、どれだけの方がどれだけのものを望んでいるのかを把握することが大事だと思っています。それをまず的確に把握していくことが大切だと考えています。

(会長)

通園バスが無料になれば、歩いていける方も全員のれるのですか。

(事務局)

原則、近くの方は歩いてきています。遠い方についてはバスを使うか、送迎するかはお任せしている。通園を支援するものとして考えています。

(会長)

統計的に、交通の不便なところの子のほど運動能力が落ちています。手厚い手当がかえって、こどもの成長や健全な育成と反することもあると思います。親は、バスに乗せてしまえば楽なんです。でも子どもと一緒に手をつないで登園できるのは幼児期だけなんです。許せば一緒に登園してほしい。そういった推進もしていかなければならないと思います。親御さんの思いだけではなく、子どもの健全な育成に大事なこともあると思います。

(委員)

先ほどお話をさせていただいたのは、バスの件は誰が求めた無料化なのか？地域の課題にもっと目を向ける体制をとって頂かないといけません。ここで住んでいてよかった、吉野町と対話できる環境を作ればそれが形になっていくんだというものを、連合PTAでもお話をさせていただいていますが、親と教育機関とが地域の課題について意見交換できる体制を作ってほしいと思います。

ニーズ調査をした上でという話がありましたが、僕たちは受ける側ですので行政が行うサービスを受けるだけですが、下から上がってくる意見を吸い上げるような子育て支援も今後必要になってくると思います。

(会長)

サービスはしてもらって当たり前。してもらって当然というところで保護者の方の社会性、倫理観が薄くなっているような気がします。そのような中で育つ子どもたちがどんな風に大きくなるんだろうと危機感さえ覚えます。そういう意味で、無料なのはすごくいいことだと思いますがかえって、タダなら乗らないと損というようにならないようにしないと、親にとっての支援になってしまって子どもにとっての支援について考えていかなければならないと思います。

本当の子育て支援は何なのかを常に意識していかないと、親にとっての支援であって子どもにとってはどうなのかということが見えにくくなると思います。会長の立場で申し訳ありませんが、意見を言わせてもらいました。

(委員)

図書室の充実ということで、かなり充実した部分があると思いますが、更にもっとというお話だったかと思います。しかし、こども園のほうは少ないような気がしました。本はどこから支給しているんでしょうか？ある町民の方から、こども園は本が少ないというお話を聞いたことがあります。教育の基本は本だと思います。こども園等への配分はどうなっていますか？本は教育委員会が買ってあげているのかどうなっているのか？

(事務局)

図書については、学校図書館図書基準において定めがあり、その基準は満たしていると考えております。しかし、本を読む環境は必要だと考えております。予算との兼ね合いもありますが、学校に図書購入の予算の配分を考えて行きたいと思っています。本を読むということは、子どもの成長に大きく影響するところだと思っています。読書奨励をしていけたらと思っています。

(委員)

こども園の配分はないのですか？

(事務局)

小学校中学校については図書費として支給しています。こども園は図書費としてではなく、消耗品という枠の中で買っています。

(委員)

中学校では朝の時間に読書タイムを設けています。小学校については学校統合に際し、いろいろな本が集まってきました。そして、使うものの仕分けを行ってきていて、かなり整理されてきました。そのなかで、使わないものについては学童保育に寄付したりしています。中学校も含めて、規模に応じた予算をつけてくれています。また、財団からの毎年 40 万円規模で寄付を頂いており非常にありがたい話で感謝しています。

(会長)

絵本 1 冊も高くなってきている。予算の関係でなかなか難しいとは思いますが、出来たら予算化していただくことがニーズと重なってくるのではないのでしょうか。ブックスタートもしていただいているし、子どもたちが本に親しむ機会があればいいなことだと思います。

(会長)

他になにかありますか。

(委員)

子ども駅伝が近々あります。子ども駅伝について、競い合うものが居ない。一人欠けるとチームが組めない状況です。また、せっかく学校から推薦してもらっても、スポーツ少年団が協力してくれるところと、あまり協力的でないところがあります。そのところを、もう少しうまく調整してほしいです。

(事務局)

教育員会としては、協力をお願いをするしかなく毎年それはさせていただいています。今後も継続しながら、理解を得られるようにしていきたいと思います。

(委員)

今後、検討課題等をもう少し数値化したものをもっと提供してほしいです。

(事務局)

かしこまりました。今後、頂いたご意見を参考に数値化に務めて参り、次回の会議で提供できるようにしていきます。

(会長)

以上を持ちまして本日の議事はすべて終了しました。事務局連絡事項はありますか。

(事務局)

次回の会議は、出来れば 5 月の末を予定しています。本日頂いたご意見を次年度の計画に活かしていければと思っています。よろしく申し上げます。

以上